

会 議 録

会議名称	第4回 豊岡市新文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会
日 時	平成31年3月18日（月） 13：30～15：30
会 場	豊岡市役所 庁議室（3階）
出席者	〔委員〕 藤野委員長、田村副委員長、杉山委員、碓井委員、平岡委員、赤澤委員、樋口委員、與田委員、木村委員、宮下委員、大西委員 〔事務局〕 桑井地域コミュニティ振興部参事、木下文化振興課長、小川文化振興課(市民会館)参事、田中係長、真島 (株)シアターワークショップ 伊東、佐藤、東
欠席者	〔委員〕 平田委員
議題等	1 開会（あいさつ） 2 前回委員会のまとめ 3 協議事項 （1）新文化会館整備基本構想（案）について ア 策定委員からの意見の内容及び市の考え方について イ パブリックコメント（意見募集）の結果について ウ 新文化会館整備基本構想（案）について （2）その他 4 その他 5 閉会
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・豊岡市新文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会次第 ・豊岡市新文化会館整備基本構想・基本計画策定委員会（第4回）資料 ・豊岡市新文化会館整備基本構想（案） ・豊岡市新文化会館整備基本構想（案）について、策定委員から寄せられた意見とそれに対する市の考え方 ・豊岡市新文化会館整備基本構想（案）について（報告）
次回会議	平成31(2019)年5月18日（土）

〈審議結果は次のとおり〉

1 開 会（あいさつ）〔藤野委員長〕

芦屋市は「アシヤアートプロジェクト」を行っていて、昨日は講義を行ってきた。私自身、阪神間のいくつかの文化行政に携わっている中で、各地の特徴や相違点について思うことが多くある。

芦屋と関わり感じたのは、セレブの街のジレンマである。芦屋には、通称豪邸条例というものがある。これは、400㎡以上の敷地面積でないと住宅等を建ててはいけないというものである。これでは、ニューファミリーはなかなか住むことはできないし、高齢化にも繋がりが、人口減少の問題も生じる。現に、芦屋も若い人が減っていく中、どうやってアートの力で人口減少を食い止めるか、という取り組みを行っている。

そういった点でいうと、豊岡にはカジュアルなまちの良さがあると感じている。汎用性や多様性を認め合う地域になれば、たくさんの可能性が見えてくる。

今、日本の65歳以上の人口割合は、全国で29%、芦屋も同じくらいである。しかし20年後は、全国で36%、芦屋は41.2%。全国平均より高齢化が進むまちといえる。

近隣の西宮や明石は子育て支援に力を注いでいるので、若い人が増えており、芦屋と比較しても10ポイント以上開くことが発表されている。

一方で豊岡は、現在34.7%で20年後は42.6%。また、人口の変化2000年と2045年を比較すると、神戸は555万人から453万人（約18%減）、大阪は880万から733万人（約12%減）、京都府は264万人から213万人（約20%）に減少すると言われている。

その中、関西で唯一あまり減らないのは滋賀で134万人に対して126万人をキープ、減っても5%である。びわ湖ホールでの取り組みも、起爆剤の一つであると考えられる。

豊岡はどうやって人口減少を緩和するか、またアートや文化芸術もその一助となることを願う。超少子高齢化となっていく中で、特に都市部から離れた場所で、いかに持続可能な公共文化施設を作っていくのかということが深刻な課題である。

まちづくりと連携し、まちの経済を活性化する役割を担わない限り、持続可能な文化施設を維持することは出来ない時代となってくる。例えば、ホール内にレストランを入れることによってまちの飲食店に打撃を与える可能性がある。そうしたことも念頭に構想を広げて行く必要がある。

2 前回委員会のまとめ

第3回策定委員会において、委員から出された意見等を報告

発言者	意 見 等
委 員	・「竹野と但東は文化芸術活動を行っている割合が疑問」と資料に記載があるが、竹野の委員が発言されたものであり、但東の委員としては、同意できないため、修正いただきたい。
事務局 (TWS)	・修正する。

3 議事

(1) 新文化会館整備基本構想（案）について

ア 策定委員からの意見の内容及び市の考え方について

○前回の委員会以降、委員から寄せられた意見とそれに対する市の考え方について、資料に沿って説明

【質疑応答・意見交換】

発言者	意見等
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・収容人数について、1,000人にこだわっている。人口減少などの問題については、理解しているつもりである。どこの地域も集客が厳しいと言われているし、現市民会館の1,118席よりも多少減るのは仕方がないことだとも思う。 ・横浜でも、集客には苦勞をしているといていたが、横浜には1万人から20~30人までたくさんの規模のイベントができる会場が備わっており、選択肢がたくさんある。 ・しかし、但馬には選択肢がない。今後、但馬の人間は1,000人以上のイベントができなくなり、機会が奪われる。本当にそれでよいのか、みなさんにも考えてほしい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・構想では600~1,000と記載している。1,000人にしてしまうと、小さいホールを整備しなくてはならないが、そこまでの予算がない。
委員事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市議会では市長から予算42億と発言があったのではないかと。 ・現時点では構想段階であり、今後、諸室などの機能や客席規模についても市民ワークショップなどもふまえて考えていく。あくまでも構想段階の数字と捉えていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・計画には、人の流れや集客状況を十分に分析して、プロジェクトの考えを示す必要がある。3日前に下田市で演奏会をした。近年10年間で5回目の満席（800席）だといわれた。下田市人口3万人。客層はほとんどが60代~80代であった。入場に25分かかっていた。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・また、新施設には、音響などの何か個性・売りが必要だと考える。 ・レストラン、カフェというものは必要だと思う。ドイツのドレスデン文化宮殿（1,700席）は改修を行って、市民図書館が併設された。一般図書館のほかにも音楽図書館の所蔵もある。昼間は親子連れがたくさんいる。一つの個性としては、舞台芸術系の情報センターというのも良いと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・バスターミナルを併設するのもよいのではないかと。イタリアでは、トラムと劇場が非常に密接で、劇場に通いやすい。難しい話かもしれないが、駐車場ありきの話ではなく視野を広げるべき。

イ パブリックコメント（意見募集）の結果について

○2月22日（金）から3月7日（木）までの期間に実施したパブリックコメントについて、コメント件数が0件であったことを報告

ウ 新文化会館整備基本構想（案）について

○策定委員会から市へ提出する基本構想（案）について、内容を説明

【質疑応答・意見交換】

発言者	意見等
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想でこれほど書き込まれているものをあまり見たことがない。質問はあるか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・抑えるポイントを抑えている。これが実現できれば本当にいい。現市民会館やひぼこホールは稼働率が低い、これは問題。しかし、詳細の稼働状況をみると、豊岡には、練習したい、体験したいという市民が多いのではないかと感じた。市民活動として、自分達で創作したいという人が多いことが分かる。文化を育てるホールということを強く押ししても良いのではないかと。市民ニーズと作ろうとしているホールが

<p>委員</p> <p>委員</p>	<p>本当に合致しているのか、常に考え続けなくてはならない。稼働状況からみても1,000席以上のホールは使いづらかったのではないかと。「小さな世界都市」という、格好良すぎるくらいの目標を掲げている豊岡市は、とても覚悟があると思う。小ささの魅力をもっと押し進めてよいのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紀伊國屋ホール、KAAT神奈川芸術劇場、本多劇場は使いやすい。300席規模である。エンターテインメントにも格差が広がっていて、コンパクトシティ向けのものや逆にフェスのような、数十万人規模などのものなど。中規模ホールはあまり現代のニーズにあっていないと感じる。芸術劇場のプレイハウスは改修を行った際に規模を縮小した例もある。 ・豊田市の例だと、演劇ファクトリーという取り組みがある。市民参加の劇団が自分達でプログラムを作って、市に売り込んでいる。市民が自分達で作っていく劇場の例で言うと、埼玉県富士見市（富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ）。地域に対して劇場がどうあるべきかを常に考えているし、子どもに対してのイベントをたくさんやっている。例えば、子どもステーションとイベント。日常的にやっているようで、昨今、日常的に居心地の良い場所にするという劇場が増えている。豊橋PLATのエントランスは高校生が集まる。昔は寛容的でなく、排除していたが、今はどんどん受け入れている。そういった場所では、劇場の情報や文化情報をモニターで流すようにしている。来館者は、その場に行けば何かしらの情報を得ることができる、そこに行くことで文化に触れられるという感覚が持てるまでにする必要がある。 ・裏方の観点でいうと、劇場の小屋付きとの関係、関西は裏方が怖かった。一升瓶を持って行かないとバトンも動かしてくれないなど、運営体制が縦割りで横の連携がうまくいっていない。地域の人材をうまく使う。さらには大学も利用したらよい。管理と企画がうまく一体となればよい。海外、フランスなどは、なんでもさせてくれる。アートが先であって劇場がある。日本は劇場が先でアート、汚さないで綺麗に使ってというスタンス。 ・市民活動スペースは非常に重要。活動したい人と市の人が一緒になれる仕組みやスペースが必要である。 ・会議室は要るのだろうかと思った。アイデアとしては、食のスペース、食は文化であり、クリエイティブな場となる。和食などを取上げれば、学びたい海外の人もいるだろうし、全国に例のないオンリーワンの施設になるのではないかと。 ・障害者の雇用や支援についての記載はありがたい。是非実現して頂きたい。利用料の減免について、これは大きい問題である。ひぼこホールでは、料金が安いが高額のために大ホールを使用したいが、小ホールを利用するという背景もあった。市民に対してどのくらい減免していくのか、これは重要である。 ・市民プラザが創造活動をしているが、そんなに広まっていない感じがある。これまでも、市民が独自に活動してきたものもあって、それを知らずに、あたかも新しいものみたいに行っているものが市の取り組みに多いと感じる。今頑張っている人もうまく取り込んでやっていただきたい。 ・稼働率について、平日と土日は大きく違うと思う。今は、土日は取り合いになっていると思う。 ・駐車場は広く。できれば、駐車場にも屋根があったら良いと思う。
---------------------	---

委 員	・前に発言した委員と同じ意見。市は外部のアーティストに対しては暖かいが、市民に対しては厳しいと感じる。京丹後市のホールは文化団体が利用する場合は1/10の使用料だと聞いた。豊岡市の地域の人たちが利用できるように利用料は考えて欲しい。使う人の身にもなって欲しい。
委員長	・使用料については、全国でも問題になっている。高度成長期と異なり行政が負担するのは難しい。利用者が少ないと受益者負担が大きくなってしまう。ひとつ言えることとしては、市民自治においては行政サービスに頼りすぎてはいけない。会館の運営には、公的な資金が使われるわけで、会館を使う人がいれば使わない人もいる。このことはシビアに考えなくてはならない。持続可能な方策を考える必要がある。
事務局 委員長	・2025年が最短での開館。情勢も変わる。それも踏まえて検討する。 ・大阪は現市民会館の約10倍の使用料。自分達が楽しむというのも大切だが、市民自治の基本的な考え方も必要。
委 員	・本会で議論した案を市長に提出させていただくが、よろしいか。 (異議なし)

4 その他〔事務局〕

次回の委員会を平成31(2019)年5月18日(土)午後1時30分から市役所2階の大会議室で開催

5 閉 会〔田村副委員長〕

ずいぶん意見もまとまってきたと思う。次の課題も見えてきた。人を育てる、文化を成熟させるということは年月かけてやらなければならないと感じる。

みなさんには来年度の計画策定でも協力いただきたい。